

日本大学の現況と課題

—全学自己点検・評価報告書2012—
(大学・短期大学部・専門学校)

点検・評価結果及び改善意見 【短期大学部 [湘南校舎]】



日本大学

目 次

総合的な点検・評価結果

I. 理念・目的	1
II. 教育研究組織	4
III. 教員・教員組織	6
IV. 教育内容・方法・成果	9
IV-1 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針	9
IV-2 教育課程・教育内容	12
IV-3 教育方法	14
IV-4 成果	17
V. 学生の受け入れ	19
VI. 学生支援	22
VII. 教育研究等環境	24
VIII. 社会連携・社会貢献	27
IX. 管理運営・財務	28
IX-1 管理運営	28
IX-2 財務	30
X. 内部質保証	32
評定一覧表	34

I. 理念・目的

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

【評価の視点】

- ① 理念・目的の明確化
- ② 個性化への対応
- ③ 大学の理念「自主創造」の能力を持つ人材の育成

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

日本大学短期大学部湘南校舎にある生物資源学科では、人口増加の状況を迎えている社会のニーズを見据え、従来の農学科と生活環境学科を統合した「生物資源学科」を2007年度からスタートさせた。「豊かで、持続性のある社会」を構築するために欠かせない、食料の確保・供給、生物資源の生産、生命の科学、環境問題への対策、利用から流通までを横断する多彩なカリキュラムを設定し、幅広い視野から多種多様な課題をとらえ、時代の動きに即応できる人材の育成を目的としており、理念・目的を明確化している。そして、教育システムとしては、選択科目を多く配置し、基礎科目を修得した上で、自らが将来の方針に沿って自由に専門科目を履修できる用になっている。その方法は、1年次から研究室に所属し少人数教育を活用して、基礎から応用まできめ細かい個別指導を行うため、1年次にゼミナールI、2年次にゼミナールIIを配置し、さらにフィールド科学概論、フィールド科学実習を配置して生物資源学を体験的に学習できるようにしている。これによって多様な学生への対応が可能となっている。

【点検・評価項目】

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

【評価の視点】

- ① 構成員に対する周知方法と有効性
- ② 社会への公表方法

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学科の理念・目的は、可能な限りの媒体を使って周知を図っている。まず、学生及び教職員個人に配布する学生要覧、毎年配布する学生手帳に明記して、毎年度始めに実施するガイダンス時に教員によって説明を行って周知している。

新入生は、軽井沢研修所で1泊2日の新入生ガイダンスによっても周知を図っている。

また、短期大学部生物資源学科ホームページに教育コンセプトとして記載して学

生・教職員とともに社会への周知も行っている。

また、学部ホームページの「教育情報」には、学科の教育研究上の目的を明示して周知を図っている。

さらに、受験生用の「短期大学部生物資源学科ガイドブック」にも教育理念・目的を明記して受験生や保護者に対する周知を行っている。

【点検・評価項目】

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

① 学内外からの意見聴取

点検・評価結果

〈短期大学部 [湘南校舎]〉

組織による定期的な検証は行っていない。しかし、毎年実施している新入生による「卒業後の進路希望アンケート調査」の結果から、学科の教育コンセプトの整合性が検証できる。それによるとミスマッチが少なく、理念・目的の適切性は妥当と評価される。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈短期大学部 [湘南校舎]〉

教育理念や目標が周知されていることから志願者が多く、志願者倍率は約2倍、収容定員充足率は1.10となっている。

3. 将来に向けた発展方策

〈効果が上がっている事項〉

〈短期大学部 [湘南校舎]〉

学科は、カリキュラム改正後の完成年度の前年から、カリキュラム改正後の検証と次期カリキュラムへ向けての検討を実施しており、その内容の検証と共に学科の教育理念や目標との整合性、あるいは受験生の希望や社会的ニーズとの整合性を検討し、それを教育に反映させている。

4. 根拠資料

〈短期大学部 [湘南校舎]〉

学生要覧 p. 6

学生手帳

短期大学部生物資源学科ホームページ <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~tandai/>

学部ホームページ

教育情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/education.html>

Ⅱ．教育研究組織

1．現状の説明

【点検・評価項目】

- (1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

【評価の視点】

- ① 教育研究組織の編制原理
- ② 理念・目的との適合性
- ③ 学術の進展や社会の要請との適合性

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学科の基本教育コンセプトである「資源生産科学」「生命科学」「環境科学」「資源利用科学」の専門科目と一般教養科目の履修可能な体系の構築を教育研究組織編製の原理としている。

短期大学部専用の校舎は、生物資源科学部のキャンパス内にあり、同学部の教育研究施設を共同利用している。

【点検・評価項目】

- (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

- ① 委員会等の設置状況、運営状況

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

生物資源科学部と短期大学部は基本的に一体となっているため、短期大学部に特化された委員会は4委員会のみある。学部委員会において短期大学部と関連のあるものは、短期大学教員の構成員とし、必要に応じて、短期大学部の内容も検討事項としている。各委員会の検討結果は、学部教授会または短期大学部教授会において報告又は審議される。

2．点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学部教員と短期大学教員の共通意識を醸成している。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

短期大学の関連委員会が多く、過重な負担を強いている。

4. 根拠資料

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学部委員会委員名簿，委員会議事録

Ⅲ. 教員・教員組織

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 教員に求める能力・資質等の明確化
- ② 教員構成の明確化
- ③ 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化

点検・評価結果

＜短期大学部〔湘南校舎〕＞

短期大学部の人事は「生物資源科学部日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に準じて行われている。入学生の多くは、生物資源科学部への編入希望であるため、教員は、短期大学独自の教育研究のほかに、編入のための教育、とくに基礎学力付与の能力も求められている。そのため、教員は、専門科目教員9名のほかに総合教育科目教員3名を配置しており、設置基準数を充足している。新入時より学生を希望の研究室に所属させ、教員は卒業まで責任を持ってきめの細かい指導を行うシステムをとっている。

【点検・評価項目】

(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

【評価の視点】

- ① 編制方針に沿った教員組織の整備
- ② 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
- ③ 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置（修・博士，専門職）

点検・評価結果

＜短期大学部〔湘南校舎〕＞

短期大学は、1教員1研究室の制度を取っていることから、教員組織は、設置基準数を基本として、社会の変化にともなって柔軟に対応できるようにしている。専門科目及び総合教育科目それぞれの担当教員の適合性は、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」にしたがって短期大学教授により審査されている。

【点検・評価項目】

(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化

- ② 規程等に従った適切な教員人事
- ③ 教員の採用・昇格に関して日本大学の教育者・研究者として適正であるとの観点に基づいた選考

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

「生物資源科学部日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に準じてすべての人事は行われている。採用、昇格及び再任は、短期大学部教授の署名捺印の申請書を学科長が学部に提出する。申請書をもとに人事委員会で協議し、適格と認められたものは、さらに学部長と人事委員会の面接を経て、短期大学部教授会で審議して決定する。日本大学の教育者・研究者として適格性については、学部長・人事委員会の面接において十分に審査されるとともに、学部長より本学における教育の理念・目標「自主創造」について訓示される。

【点検・評価項目】

(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

【評価の視点】

- ① 教員の教育研究活動等の評価の実施
- ② ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学部として、教員の教育研究活動等の組織的な評価は実施していない。しかし、学部ホームページを通じて全ての教員は各自Webにより日本大学教員システムに登録していて、その結果は、全学期末監査や大学基準協会の監査の際に使用される。一方、学生による教員の授業評価は授業アンケートにより実施し、結果を数値化して、教員へフィードバックし、教員自身による評価の資料としている。また、専任教員と非常勤教員による教育懇談会を開催し、学生の成績から進路までの解析等を行うことにより教育方法について議論している。教員の資質の向上を図るための方策としては、日本大学FD推進センターと一体になって学部のFD活動を推進することにある。日本大学FD推進センターより発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD Newsletterを全教員へ周知徹底した。FD活動としては有効的には機能しているとはいえないため、秋にはティーチング・ポートフォリオの紹介を含む講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みについて、教員の意識を高めることを行う。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

FD活動を積極的に行っているため、所属教員間における学生の教学に関する事項について共通認識が形成されている。短大学生の80%以上は、4年制学部への編入学

を希望しているため、それに対応した学生の指導に効果が上がっている。

専門科目教員は、学部教員と同等の審査を受けており、業績の向上が認められる。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

FD活動としては有効的には機能しているが、秋にはティーチング・ポートフォリオの紹介を含む講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みについて紹介する。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

FD活動を積極的に行っているため、所属教員間における学生の教学に関する事項について共通認識が形成されている。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

将来に向けた発展方策としては、ティーチング・ポートフォリオを含む、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みの導入を行う。

4. 根拠資料

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規、学部教員一覧

IV. 教育内容・方法・成果

IV-1 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
- ② 教育目標と学位授与方針との整合性
- ③ 修得すべき学習成果の明示

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

短期大学士課程の教育目標は，学生要覧に記載してある。また，短期大学を含む学部ホームページの「教育情報」の項目において「学部の特徴—教育の考え方」として，「教育コンセプト」を明示し，さらに「教育研究上の目的について」の項目において課程における教育目標を記載している。また，同じくホームページにおいて「入学者受入れ」，「教育課程編成・実施」，「学位授与」の3つのポリシーを明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。さらに修得すべき学習成果については，学位授与の方針に明示してある。

【点検・評価項目】

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
- ② 科目区分，必修・選択の別，単位数等の明示

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針については，短期大学を含む学部ホームページに明示してある。すなわち，ホームページでは「教育課程編成・実施」のポリシーは「入学者受入れ」と「学位授与」のポリシーとともに明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。また，「履修モデル」を明示し，学習支援の一助とし，体系的な教育課程の編成について示している。さらに，科目区分，必修・選択の別，単位数等については，学生要覧に記載するとともに，授業計画（シラバス）に明示されている。シラバスは短期大学を含む学部ホームページに掲載されていることから，自宅においてもその内容を確認することができる。

【点検・評価項目】

(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

【評価の視点】

- ① 周知方法と有効性
- ② 社会への公表方法

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

教育目標については、学生要覧をはじめ、短期大学を含む学部ホームページや学部発行の学園ニュースなどを通じて大学構成員（教職員及び学生等）に周知されている。教育目標に加えて、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については短期大学を含む学部ホームページの「教育情報」の項目に記載されている。学部ホームページは、特に多くの受験生が閲覧し、本学部を選択する際の参考にしていることから、大学構成員（教職員及び学生等）に周知されるばかりでなく、社会に公表されているといえる。

【点検・評価項目】

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

- ① カリキュラム改定の検討

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、短期大学を含む学部全体における定期的な検証は行っていないが、3つ（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）のポリシーを設定するにあたり、これらの方針の適切性を議論してきた。その結果として、学科の教育の目標や教育課程に合致させながら、時代の要請も勘案して学科のカリキュラムの改定へとつなげている。そして、現在4年制学科への改編も視野に入れ、カリキュラムの見直しを含めた検討を行っている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

4年制学科への改編も視野に入れ、カリキュラムの見直しを含めた検討を行っている。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

4年制学科への改編も視野に入れたカリキュラムの見直しにより短期大学としての

カリキュラムの検討が停滞すること。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

4年制学科への改編も視野に入れ、カリキュラムの見直しを含めた検討を行っている。

4. 根拠資料

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

IV-2 教育課程・教育内容

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【評価の視点】

- ① 必要な授業科目の開設状況
- ② 順次性のある授業科目の体系的配置
- ③ 専門教育・教養教育の位置づけ（学士）

点検・評価結果

<短期大学部〔湘南校舎〕>

必要な授業科目については適正に開設され、年次ごとに修得するように配置されている。また、授業科目修得の順序性を確保するねらいから、「履修モデル」を作成し、科目の体系化を図っている。また、1年次よりゼミナール科目を設置し、少人数教育を徹底しているとともに、スタディスキルズに関連する内容を設け体系的な履修指導体制を構築している。

【点検・評価項目】

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

【評価の視点】

- ① 学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学士）
- ② 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学士）
- ③ 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（修・博士）
- ④ 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専門職）
- ⑤ 入学前教育の実施状況

点検・評価結果

<短期大学部〔湘南校舎〕>

教育課程の編成・実施方針に基づき、短期大学学士課程に相応しい教育内容を提供している。また、高大連携に配慮した教育内容としては、学習支援センターにおいて学習の相談を行っているとともに、生物と化学の補習授業を平成23年度より開設した。入学前教育については、通信添削方式によるDVD教材を用い、推薦入学試験合格者に対し実施している。また学部で開講している基礎専門科目の「キャリアガイダンス入門」と「キャリアガイダンス概論」を聴講させ、キャリア教育の構築をめざしている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学部授業科目である「キャリアガイダンス入門」を、短期大学学生に聴講させ、自校教育や大学での「学び」についての初年次教育として有効となっている。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学習支援センターにおいて学習の相談を行っているとともに、平成23年度より開設した生物と化学の補習授業は高大連携の授業として有効であり、効果が上がっている。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

高大連携のための入学前教育の充実が求められる。

4. 根拠資料

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

キャリアガイダンスのシラバス、リメディアル授業の資料

IV-3 教育方法

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育方法および学習指導は適切か。

【評価の視点】

- ① 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
- ② 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
- ③ 学生の主体的参加を促す授業方法
- ④ 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（修・博士）
- ⑤ 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専門職）

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

教育目標の達成に向けて、講義・演習・実験等が実施され、平成22年度から開始したカリキュラムにおいては、従来2年次に開講していた「フィールド科学実習」を1と2年次に変更・設置した。このことにより初年次からフィールド教育の実践を可能にした。同時に、それぞれの学問の進展やカバーする学問分野の多様化に対応するべく科目も設置するとともに、生物資源科学部開講科目を最大20単位まで修得することができるようにすることにより、学部への編入学への動機付けと編入後の学習が円滑に行えるようになった。学習指導の充実を計るために、履修科目登録の上限設定を平成25年度入学者から実施する。1年次から研究室には配属し、少人数制のゼミナール形式を行い、主体的参加を促す授業方法として、きめ細かな指導を行っている。

【点検・評価項目】

(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

【評価の視点】

- ① シラバスの作成と内容の充実
- ② 授業内容・方法とシラバスとの整合性

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

シラバスの作成と内容の充実については毎年見直しを行っている。授業回数ごとの時間の内容記載の充実と、学習目標や成績評価基準の記載の徹底化により教員ごとの内容の多寡は少なくなり充実した。そして、授業内容・方法とシラバスとの整合性が計られている。しかしながら、この整合性の確保については、各教員に依存し、短期大学を含む学部での検証は行なっていない。

【点検・評価項目】

(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
- ② 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
- ③ 既修得単位認定の適切性

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

厳格な成績評価，すなわち評価方法や評価基準は，科目ごとにシラバスに明示してある。単位制度の趣旨に基づく単位認定方法としてGPA制度を採用しており，これに基づき単位認定が厳正に行われ，結果として単位認定の適切性及び公平・公正な成績評価が行われている。また，既修得単位の認定についても学則を前提にした申し合せや取扱要領に基づき，適正かつ厳格な単位認定が行われている。

【点検・評価項目】

- (4) 教育成果について定期的な検証を行い，その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

【評価の視点】

- ① 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修やその研究を実施し，その結果は教育内容や方法の改善に結びつけている。学生による授業アンケートは，各教員あたり少なくとも1科目に対して行われていて，その結果は集計後教員へはフィードバックされている。しかし，現在はこれらの結果に基づく組織的な検証は行っていない。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

平成22年度から開始したカリキュラムにおいては，従来2年次に開講していた「フィールド科学実習」を1と2年次に変更・設置した。このことにより初年次からフィールド教育の実践を可能にし，教育目標の達成に有効であり，効果が上がった。

〈改善すべき事項〉

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学生による授業アンケートを行っている。しかし，現在はこれらの結果に基づく組織的な検証は行っていない。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

生物資源科学部開講科目を最大20単位まで修得することができるようにしたため、卒業後の学部への編入学への動機付けとなり、効果が上がった。

4. 根拠資料

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

シラバス，学生要覧

IV-4 成果

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

【評価の視点】

- ① 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
- ② 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

教育目標に沿った学生の学習成果を測るための評価指標としては、4年制学部への編入がある。卒業生の80%以上が編入により進学するため、進学後の評価も含めて解析し、在校生への教育に結びつけている。

【点検・評価項目】

(2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 学位授与基準、学位授与手続きの適切性
- ② 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（修・博士，専門職）

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

定期試験後の成績登録はWebにより各科目担当教員により行われ、教務課により各学生の「単位履修表」を作成し、各学科での確認を慎重かつ厳正に行い、結果として学位授与基準に基づき、学位授与手続きは適切に行われている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

<短期大学部 [湘南校舎]>

定期試験後の成績登録はWebを利用して行われるため、事務手続きの時間的な削減は達成され、学位授与手続きが適切に行うための確認等に対応でき、効果が上がった。

《改善すべき事項》

<短期大学部 [湘南校舎]>

機械的処理が増加したことにより、処理過程でのミスが発見を含めた確認の必要性が重要視されるので、その方策を設けなければならない。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

＜短期大学部〔湘南校舎〕＞

定期試験後のWeb成績登録により、単位修得状況がより早く把握できるようになり、事務的な軽減となり、卒業認定を適切に行うことにつながっている。

《改善すべき事項》

＜短期大学部〔湘南校舎〕＞

機械的処理が増加したことにより、処理過程でのミスの発見を含めた確認の必要性が重要視されるので、その方策を設けなければならない。

V. 学生の受け入れ

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 求める学生像の明示
- ② 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
- ③ 障がいのある学生の受け入れ方針

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

アドミッション・ポリシーは、あらゆる機会を通して公開している。受験者向け「生物資源学部・短期大学部部ガイドブック」「2013年度版 Q&A入試ガイド」にはもちろんのこと、学部ホームページの「教育情報」には、短期大学部生物資源学科の入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)を明示して周知している。学科の教育研究上の目的も公開しており、これによって求める学生像と、その育成目標も明示している。

入学するにあたり習得しておくべき知識等の内容・水準を知らしめる方法として、推薦入学合格者には、入学前教育として推薦図書の提示や、過去の試験問題解説などを課している。また、学科シラバスを公開しており、その中で事前に習得しておくことが望ましい知識を明記している。

本学科は、理系で実験実習が多いことから、障がいのある志願者には、受験前に「事前協議」を行っている。事前協議とは、志願者及び保護者(高校の担任が同伴する場合もある)に本学部まで来校してもらい、学科における実験実習科目の内容などを志望学科の学科長・学務担当(入試管理委員長・教務課長・入試担当者が陪席)から詳細に説明して、障がいのある志願者が入学後に当該科目の受講が可能か否かを当人に判断してもらい、志願者とその保護者及び学科長の3者が、受講可能と判断される場合に限り受験を許可している。(合格した場合は入学を許可する。)

【点検・評価項目】

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【評価の視点】

- ① 学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
- ② 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学生の募集方法・入学者選抜方法は、短期大学部生物資源学科ホームページの「入

試情報」，受験生向け「2013年度版 Q&A入試ガイド」に明記して公開している。また，年間2回3日間実施しているオープンキャンパスの「学科別個別相談」「入試制度コーナー」学部祭開催時の「学科別個別相談」で周知し，受験の機会均等を図っている。

また，短期大学部生物資源学科では，多くの学生が4年生大学への編入学を希望していることから，短期大学部生物資源学科ホームページの「編入学」で情報提供を行って，志願者への便宜を図っている。

また，入試に関するすべての事案は，入試管理委員会で検討して，最終的には教授会に諮って決定することによって適切性の検証や，選抜方法の透明性の確保を担保している。

【点検・評価項目】

(3) 適切な定員を設定し，学生を受け入れるとともに，在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

【評価の視点】

- ① 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
- ② 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応

点検・評価結果

〈短期大学部 [湘南校舎]〉

新入生の収容定員は，募集定員の1.00に設定し，定員不足を来さないように入試を行っている。入学試験の制度・実施要項などは全て生物資源科学部と同様で，生物資源科学部の11番目の学科的な位置づけで入試を実施している。

【点検・評価項目】

(4) 学生募集および入学者選抜は，学生の受け入れ方針に基づき，公正かつ適切に実施されているかについて，定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

指定なし

点検・評価結果

〈短期大学部 [湘南校舎]〉

新年度のはじめに，入試管理委員会で前年度入試全般について検証を行っている。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈短期大学部 [湘南校舎]〉

短期大学部生物資源学科の社会的な評価は高く評価されており，その結果，一般入学試験の志願者倍率が約2倍，募集人員充足率110%の学科である。

4. 根拠資料

<短期大学部 [湘南校舎]>

2013年度 Q & A 入試ガイド

生物資源科学部 ガイドブック

短期大学部生物資源学科ガイドブック

短期大学部生物資源学科ホームページ

入試情報 <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~tandai/admissions.html>

編入学 <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~tandai/hennyu.html>

学部ホームページ

教育情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/education.html>

VI. 学生支援

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学内外の各種奨学金への周知を積極的に行い、経済的困窮学生に対する支援を拡大し、また進路支援の充実もはかっている。これらの支援内容については、学部生要覧等に掲載している。

【点検・評価項目】

(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
- ② 補習・補充教育に関する支援体制とその実施
- ③ 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性
- ④ 奨学金等の経済的支援措置の適切性

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

再履修者及び休・退学者の状況については、学級担任と学科長を經由した書類に基づき学科主任会及び教授会で詳細に報告している。再履修者に対する支援内容としては、学級担任や研究室の指導教員による履修指導や進路相談などを行い、学習面と生活面できめ細かな支援を実施している。補習教育については、学習支援センターを設置するとともに化学と生物では2名の教員（元高等学校教諭）による補習授業を実施しており、さらに学外組織との連携協力による教育研究の推進を行っている。

現在、障がいのある学生は在籍していない。

【点検・評価項目】

(3) 学生の生活支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮
- ② ハラスメント防止のための措置

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

学生の生活支援においては、学生の心身の健康保持及び安全・衛生の確保及びハラスメントの防止に務めている。学生相談については、相談室に月～金でカウンセラーが1名～2名常駐し毎日7時間開室している。隣接するフリースペースも月～金でカウンセラーが在室時に開放しており、相談室の利用回数は全体で延べ715回となっている。

平成20年度以降、実験・実習の安全対策及び麻疹（はしか）感染防止のための「学生事故防止マニュアル」を作成し、事故防止に努めている。

また、学生食堂のサービス向上のために学生アンケートを実施し、その要望に沿って食堂施設の改修を行った。

【点検・評価項目】

（4）学生の進路支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施
- ② キャリア支援に関する組織体制の整備
- ③ 関連国家試験対策及び合格率

点検・評価結果

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

進路選択に関わる指導・ガイダンスについては、短期大学部では生物資源科学部と連携して学生支援を実施している。平成23年度は、キャリアデザイン講座（7回、延390名参加）、2年生就職ガイダンス（2回×2、延273名）、就職ガイダンス（5回×2、延3,583名）などを含む76の行事を実施し、延20,314名が参加した（人数は生物資源科学部及び大学院の学生を含む）。またOB・OGによる職場体験講座などの行事を実施し、進路指導を行っている。

キャリア支援は主に就職指導課が担当しており、併設の就職資料室において個別に学生の就職指導に当たっている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

短期大学部及び生物資源科学部では多数の就職行事を実施しているが、就職に対する意識が低く、これらの行事に参加しない学生がいることから、これらの学生の意識向上が改善すべき点といえる。そのため、平成23年度から就職指導担当が教室に向向いて臨時的就職ガイダンスを実施している。

Ⅶ. 教育研究等環境

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化
- ② 校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画
- ③ 正規カリキュラム以外での教育環境の整備

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

学生の学習及び教員による教育研究環境整備に関する方針は、年度はじめに生物資源科学部長の施策方針の中に短期大学部生物資源学科の方針が含まれており、執行部会及び短期大学部湘南校舎次長によって短期大学部教授会で説明されて周知されている。また、校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画は、学部の次年度予算編成時に組み込まれ、執行部会で議論し、学科主任・学科長会議及び短期大学部教授会に諮られ、明確化されている。

一方、正規カリキュラム以外での教育環境の整備は、学部と一緒に行われる第一種委員会(学務・学生・研究・企画広報・就職指導)で議論されたものが、執行部会に上程されて検討され、整備計画に反映される。その内容は、研究の進展、社会貢献、研究成果の社会還元などである。

【点検・評価項目】

(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【評価の視点】

- ① 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成
- ② 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

本学部は、生物資源科学部湘南校舎内に校地面積4,000㎡、校舎面積3,936㎡を有し、学部と共に、学生及び教職員にとって快適で安全性に優れた施設・環境、豊かな自然環境をベースとしたキャンパス・アメニティの向上を目指したキャンパス整備を展開している。(大学基礎データ)

【点検・評価項目】

(3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

【評価の視点】

- ① 図書，学術雑誌，電子情報等の整備状況とその適切性
- ② 図書館の規模，司書の資格等の専門能力を有する職員の配置，開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境
- ③ 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

生物資源科学部との共用図書館は，経験豊かな司書とシステムエンジニアを配し，図書約30万冊，学術雑誌約4,600種，電子ジャーナル約3万タイトルが利用でき，閲覧席808席，学習支援用パソコンを完備した個人閲覧室やグループ学習室など学習・教育・研究に役立つ利用環境が充実している。

【点検・評価項目】

(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【評価の視点】

- ① 教育課程の特徴，学生数，教育方法等に応じた施設・設備の整備
- ② ティーチング・アシスタント（TA）・リサーチ・アシスタント（RA）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
- ③ 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

独自の短大棟は言うに及ばず，同じキャンパス内にある関連施設・設備の利活用に学部間の壁はない。付置機関の施設設備はこれまでに順次整備されてきている。短大学生を対象にしたTA等による支援体制は無い。教員の研究室，研究専念時間の確保等で生物資源科学部との大きな違いはない。

【点検・評価項目】

(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

【評価の視点】

- ① 研究倫理に関する学内規程の整備状況
- ② 研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

現状は生物資源科学部と同様の状況にあり，規程整備や機関の設置を考えている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

<短期大学部 [湘南校舎]>

東日本大震災を契機に、本学部所管施設の全てに対して危険度判定調査等を実施し、安全性を確認した。

また、学部と一部を共用する学生の情報受発信・交流の場と学習意欲向上を誘うコラボレーション創発拠点となる“60周年記念棟（仮称）”の建設設計も完成を迎え、既存施設をも包含する環境配慮型、安心安全なキャンパス整備が進展している。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

緑豊かで広大な湘南校舎の魅力を存分に活かしながら、キャンパスにおける学生生活の拠点（スチューデントエリア）、講義・学習支援（アメニティ）エリア、研究・実験エリア、スポーツエリアなどのゾーニングのもと、地域との共生を目指した校地・校舎の整備が加速している。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

本学部専用校舎への車椅子仕様のエレベータ新設計画を加速し、バリアフリー化を推進する。

4. 根拠資料

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

大学基礎データ

VIII. 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

【評価の視点】

- ① 産・学・官等との連携の方針の明示
- ② 地域社会・国際社会への協力方針の明示

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

特になし

【点検・評価項目】

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

【評価の視点】

- ① 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
- ② 学外組織との連携協力による教育研究の推進
- ③ 地域交流・国際交流事業への積極的参加

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

生物資源科学部同様，教員各自が業績一覧を公開しており，多分野における活動，参加が見られる。

Ⅸ. 管理運営・財務

Ⅸ－1 管理運営

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知
- ② 意思決定プロセスの明確化
- ③ 教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化
- ④ 教授会の権限と責任の明確化

点検・評価結果

<短期大学部〔湘南校舎〕>

学則第4条により教授会を置き、管理運営方針を含む教学上重要な事項を審議している。学部長の諮問機関としての各種委員会を設置し、そこで学部の諸問題について検討し、その結果を学部長が統括する執行部会、学科主任会で協議し、最終的に教授会で審議している。

【点検・評価項目】

(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。

【評価の視点】

- ① 関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用
- ② 学長、学部長・研究科長および理事（学務担当）等の権限と責任の明確化
- ③ 学長選考および学部長・研究科長等の選考方法の適切性

点検・評価結果

<短期大学部〔湘南校舎〕>

寄附行為を含む日本大学規程が整備され、日本大学教育職組織規程により、学部長等の権限が定められており、またその補佐体制も明文化され、これらを適切に運用されている。また学部長は、学部長選挙規程により公明正大に選出されている。

【点検・評価項目】

(3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。

【評価の視点】

- ① 事務組織の構成と人員配置の適切性
- ② 事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策
- ③ 職員の採用・昇格等に関する諸規程の整備とその適切な運用

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

事務組織は、事務職組織規程に基づき編成され、学部事務分掌規程、職員の採用及び資格等に関する規程により能率的な運営を図っている。

【点検・評価項目】

(4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

【評価の視点】

① スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施状況と有効性

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎]>

定期的に階層別、職域等による研修会を開催し、意欲・資質向上の伸展を促している。

Ⅸ－２ 財務

１．現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。

【評価の視点】

- ① 中・長期的な財政計画の立案
- ② 科学研究費補助金，受託研究費等の外部資金の受け入れ状況
- ③ 消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率の適切性

点検・評価結果

＜短期大学部〔湘南校舎〕＞

毎年度予算編成及び決算時に，新規事業計画の設定及び既存計画の実行・見直しを確認しつつ，中・長期計画を策定している。

また，科学研究費などの外部資金獲得を支援するための研究支援センターの設置はじめ，外部資金獲得状況に連動した成果研究費の導入及び学内研究費の活性化等，申請の拡大を図っている。

その中で，平成23年度実績。人件費比率39.7%，人件費依存率49.4%，教育研究経費比率42.2%，管理経費比率2.7%，消費支出比率100.1%，消費収支比率103.0%，学生生徒等納付金比率80.4%，補助金比率5.9%，基本金組入比率2.9%，自己資金構成比率95.8%，固定比率98.1%，固定長期適合率98.1%，流動比率144.8%，総負債比率4.2%，負債比率4.4%となっており適切である。

【点検・評価項目】

(2) 予算編成および予算執行は適切に行っているか。

【評価の視点】

- ① 予算編成の適切性と執行ルールの特明確性，決算の内部監査
- ② 予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立

点検・評価結果

＜短期大学部〔湘南校舎〕＞

法人本部の予算編成基本方針に基づき，学部予算編成基本方針を策定の上，編成にあたっている。決算の内部監査については，監事及び公認会計士により実施され，毎年度理事長宛に監査報告書及び意見書が提出される。

一方，学部内の営繕管財委員会等で重要度を勘案しつつ審議し，執行部会で決定後予算執行している。また，目的別に予算・決算の内訳表を作成し，各部署・委員会等において執行に対する検証を行っている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

研究支援センターを設置し、科学研究費補助金、受託研究費等外部資金の獲得増加及び研究活動の活性化を図ったことにより、平成23年度は、科学研究費補助金、受託研究費、奨学研究寄付金、研究助成金において、前年同時期より増加した。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

中・長期的な財政計画において、大規模キャンパス整備事業等により、消費支出比率が100%を超える状況が続くことが見込まれるため、比率の改善に向けた取り組みが必要である。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

更なる外部資金獲得に向け、研究施設の組織再編、教員の外部資金導入に対する意識を高める機会、支援組織の充実を図る。

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

財政状況の健全性・安全性を確保するため、学費改定及び経費の削減等、具体的取り組みにより改善を図る。

X. 内部質保証

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

- (1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

【評価の視点】

- ① 自己点検・評価の実施と結果の公表
- ② 情報公開の内容・方法の適切性、情報公開請求への対応

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎] >

併設の生物資源科学部とともに、学部ホームページ上に教育研究上の基礎情報、修学上の情報を公開している。また自己点検報告書を作成し、その結果を公開している。

【点検・評価項目】

- (2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。

【評価の視点】

- ① 内部質保証の方針と手続きの明確化
- ② 内部質保証を掌る組織の整備
- ③ 自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムの確立
- ④ 構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識の徹底

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎] >

内部質保証システムに関しては、併設の生物資源科学の学務委員会及び短期大学部自己点検・評価委員会において適宜、教育研究の内部質保証に取り込んでいるところである。

【点検・評価項目】

- (3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

【評価の視点】

- ① 組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実
- ② 教育研究活動のデータ・ベース化の推進
- ③ 学外者の意見の反映
- ④ 文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項への対応

点検・評価結果

<短期大学部 [湘南校舎] >

生物資源科学部の中に，短期大学のFD委員会，自己点検・評価委員会をはじめ教育研究に関する様々な委員会が設置され，また教育情報，研究情報も公表している。文部科学省，大学基準協会からの指摘事項，助言等に対しては迅速に対応している。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

生物資源科学部との相互履修制度により，20単位まで取得することができるようになったことから，学生の資質向上に大きく貢献している。

3. 将来に向けた発展方策

《改善すべき事項》

〈短期大学部〔湘南校舎〕〉

短期大学部（湘南校舎），適切な収容定員数の設定や短期大学全体としての中期・長期ビジョンの策定が必要である。

評定一覧表

基準名		短期大学部 [湘南校舎]
1	理念・目的	S
2	教育研究組織	A
3	教員・教員組織	B
4-(1)	教育内容・方法・成果 (教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針)	A
4-(2)	教育内容・方法・成果 (教育課程・教育内容)	B
4-(3)	教育内容・方法・成果 (教育方法)	B
4-(4)	教育内容・方法・成果 (成果)	B
5	学生の受け入れ	A
6	学生支援	B
7	教育研究等環境	B
8	社会連携・社会貢献	B
9-(1)	管理運営・財務 (管理運営)	B
9-(2)	管理運営・財務 (財務)	A
10	内部質保証	B

[注]

評定は、以下の基準を目安に付している。

- S－ 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。
- A－ 概ね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。
- B－ 方針に基づいた活動や目的・教育目標の達成がやや不十分である。
- C－ 方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。